

2015年3月期第2四半期決算実績と 今後の取り組みについて



2014年10月31日
西日本旅客鉄道株式会社

I. 2015年3月期第2四半期の実績と2015年3月期の見通しについて 2

II. 今後の取り組みについて 18

1. 中期経営計画および業績の実績と見通しの概要 19

2. 各事業戦略における取り組み ～ 新幹線、近畿圏、事業創造 ～ 24

3. 設備投資計画、キャッシュフロー・財務の状況、株主還元 34

I . 2015年3月期第2四半期の実績と 2015年3月期の見通しについて

(単位: 億円)

	2014年3月期 2Q累計実績	2015年3月期 2Q累計実績	対前年		2014年3月期 通期実績	2015年3月期通期		対前年		対予想 増減
			増減	比率(%)		前回(7/30) 予想	今回(10/29) 予想	増減	比率(%)	
			B-A	B/A		D	E	E-C	E/C	
A	B			C						
【連結】										
営業収益	6,421	6,515	+93	101.5	13,310	13,195	13,300	▲ 10	99.9	+105
営業利益	748	821	+73	109.8	1,345	1,175	1,240	▲ 105	92.1	+65
経常利益	615	724	+109	117.7	1,129	985	1,050	▲ 79	93.0	+65
四半期(当期)純利益	368	544	+175	147.6	656	585	655	▲ 1	99.8	+70
【単体】										
営業収益	4,335	4,407	+71	101.6	8,736	8,745	8,810	+73	100.8	+65
運輸収入	3,886	3,948	+62	101.6	7,806	7,815	7,880	+73	100.9	+65
営業費用	3,712	3,715	+3	100.1	7,718	7,795	7,795	+76	101.0	—
人件費	1,172	1,169	▲ 2	99.8	2,354	2,330	2,330	▲ 24	98.9	—
物件費	1,613	1,662	+49	103.1	3,516	3,690	3,690	+173	104.9	—
動力費	214	227	+12	105.9	431	465	465	+33	107.9	—
修繕費	599	620	+21	103.5	1,390	1,465	1,465	+74	105.4	—
業務費	799	815	+15	101.9	1,695	1,760	1,760	+64	103.8	—
減価償却費	628	611	▲ 16	97.4	1,293	1,270	1,270	▲ 23	98.2	—
営業利益	623	691	+68	111.0	1,017	950	1,015	▲ 2	99.7	+65
経常利益	496	575	+79	115.9	799	750	815	+15	101.9	+65
四半期(当期)純利益	304	390	+85	128.2	486	430	500	+13	102.7	+70

単体損益計算書

(単位: 億円)

	2014年3月期 2Q累計実績 A	2015年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	4,335	4,407	+71	101.6
運輸収入	3,886	3,948	+62	101.6
その他収入	449	458	+8	102.0
営業費用	3,712	3,715	+3	100.1
人件費	1,172	1,169	▲ 2	99.8
物件費	1,613	1,662	+49	103.1
動力費	214	227	+12	105.9
修繕費	599	620	+21	103.5
業務費	799	815	+15	101.9
線路使用料等	118	92	▲ 26	77.5
租税公課	179	178	▲ 0	99.8
減価償却費	628	611	▲ 16	97.4
営業利益	623	691	+68	111.0
営業外損益	▲ 126	▲ 116	+10	91.5
営業外収益	15	15	▲ 0	—
営業外費用	142	131	▲ 10	—
経常利益	496	575	+79	115.9
特別損益	▲ 3	▲ 27	▲ 23	—
特別利益	30	37	+7	—
特別損失	33	64	+30	—
四半期純利益	304	390	+85	128.2

運輸収入の主な増減要因

(単位: 億円)

		2015年3月期 2Q累計実績			
		運輸収入	対前年	主な増減要因	
新幹線	1,846	+34 (101.9%)	基礎トレンド(101.5%)	+27	
			特殊要因	インターネット利用促進	+5
				シニアマーケット取り込み	+2
				USJ	+2
				インバウンド	+1
				曜日配列(3連休1回減)	▲ 6
等					
在来線	近畿圏	+20 (101.4%)	基礎トレンド(101.0%)	+14	
			特殊要因	インバウンド	+3
				大型商業施設	+3
				曜日配列(3連休1回減)	▲ 1
	等				
	その他	+7 (101.2%)	基礎トレンド(101.4%)	+8	
			特殊要因	曜日配列(3連休1回減)	▲ 1
				等	
	在来線計	2,102	+27 (101.3%)		
	運輸収入計		3,948	+62 (101.6%)	

※荷物収入は金額些少のため省略

運輸収入と旅客輸送量の実績

運輸収入

(単位: 億円)

輸送人キロ

(単位: 百万人キロ)

	2Q累計実績(4/1~9/30)			2Q実績(7/1~9/30)		
	2014年 3月期	2015年 3月期	対前年	2014年 3月期	2015年 3月期	対前年
全社計	3,886	3,948	+62 101.6%	2,004	2,040	+35 101.8%
新幹線	1,811	1,846	+34 101.9%	944	962	+18 102.0%
定期	46	46	+0 100.0%	23	22	▲0 97.4%
定期外	1,764	1,799	+34 102.0%	920	939	+19 102.1%
在来線	2,074	2,102	+27 101.3%	1,060	1,077	+17 101.6%
定期	716	724	+7 101.0%	355	359	+4 101.1%
定期外	1,358	1,378	+20 101.5%	704	717	+13 101.9%
近畿圏	1,460	1,480	+20 101.4%	736	749	+13 101.8%
定期	578	584	+6 101.1%	287	291	+4 101.5%
定期外	881	896	+14 101.6%	449	457	+8 102.0%
その他	614	621	+7 101.2%	323	328	+4 101.4%
定期	138	139	+1 100.7%	68	68	▲0 99.8%
定期外	476	482	+6 101.3%	255	259	+4 101.8%

	2Q累計実績(4/1~9/30)			2Q実績(7/1~9/30)		
	2014年 3月期	2015年 3月期	対前年	2014年 3月期	2015年 3月期	対前年
全社計	27,941	28,027	+86 100.3%	14,275	14,343	+68 100.5%
新幹線	8,722	8,885	+163 101.9%	4,584	4,680	+96 102.1%
定期	380	371	▲8 97.6%	190	191	+1 100.9%
定期外	8,341	8,513	+172 102.1%	4,394	4,488	+94 102.2%
在来線	19,219	19,142	▲77 99.6%	9,691	9,663	▲28 99.7%
定期	11,760	11,551	▲208 98.2%	5,762	5,643	▲119 97.9%
定期外	7,458	7,590	+131 101.8%	3,928	4,020	+91 102.3%
近畿圏	14,565	14,519	▲46 99.7%	7,279	7,268	▲11 99.8%
定期	9,487	9,360	▲127 98.7%	4,659	4,587	▲72 98.5%
定期外	5,077	5,159	+81 101.6%	2,620	2,681	+60 102.3%
その他	4,653	4,622	▲31 99.3%	2,411	2,394	▲17 99.3%
定期	2,272	2,191	▲81 96.4%	1,103	1,055	▲47 95.7%
定期外	2,380	2,431	+50 102.1%	1,308	1,338	+30 102.3%

単体営業費用の主な増減要因

(単位:億円)

科目	2015年3月期 2Q累計実績		
		対前年	主な増減要因
人件費	1,169	▲ 2 (99.8%)	・退職手当減▲20 ・健康保険・厚生年金等保険料率変更+6 等
動力費	227	+12 (105.9%)	・燃料価格上昇・再エネ賦課金等増+13 等
修繕費	620	+21 (103.5%)	・工事単価上昇+13 ・北陸新幹線金沢開業準備経費+0 等
業務費	815	+15 (101.9%)	・会社間清算増+5 ・北陸新幹線金沢開業準備経費+4 ・システム関連経費増+3 等
線路使用料等	92	▲ 26 (77.5%)	・湖西線貸借期間終了▲27 等
租税公課	178	▲ 0 (99.8%)	
減価償却費	611	▲ 16 (97.4%)	・北陸新幹線金沢開業準備経費+3 ・償却進捗 等
営業費用計	3,715	+3 (100.1%)	

連結損益計算書

(単位:億円)

	2014年3月期 2Q累計実績 A	2015年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	6,421	6,515	+93	101.5
営業費用	5,673	5,693	+20	100.4
営業利益	748	821	+73	109.8
営業外損益	▲ 132	▲ 97	+35	73.2
営業外収益	15	37	+21	-
営業外費用	148	134	▲ 14	-
経常利益	615	724	+109	117.7
特別損益	▲ 5	31	+37	-
特別利益	33	109	+76	-
特別損失	39	77	+38	-
四半期純利益	368	544	+175	147.6
<i>四半期包括利益</i>	<i>383</i>	<i>555</i>	<i>+172</i>	<i>144.9</i>

セグメント情報

(単位: 億円)

	2014年3月期 2Q累計実績 A	2015年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益*1	6,421	6,515	+93	101.5
運輸業	4,223	4,293	+69	101.7
流通業	1,168	1,113	▲ 55	95.3
物販・飲食	682	659	▲ 22	96.6
百貨店	438	411	▲ 27	93.8
不動産業	428	429	+1	100.3
ショッピングセンター	273	249	▲ 24	91.1
不動産賃貸・販売*3	146	171	+24	116.8
【分譲事業】	【9】	【27】		
その他	602	680	+78	113.0
ホテル	162	167	+5	103.3
旅行	183	195	+11	106.4
営業利益*2	748	821	+73	109.8
運輸業	571	631	+59	110.4
流通業	20	19	▲ 0	96.1
物販・飲食	24	27	+2	108.8
百貨店	▲ 6	▲ 9	▲ 3	-
不動産業	122	140	+18	114.8
ショッピングセンター	43	38	▲ 5	87.9
不動産賃貸・販売	33	50	+16	149.5
その他	25	22	▲ 2	89.5
ホテル	9	8	▲ 1	85.1
旅行	▲ 2	▲ 2	▲ 0	-

*1 営業収益は、外部顧客に対する売上高(外部売上高)を示しており、各セグメントの内訳は、主な子会社の外部売上高の合計値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*2 営業利益の各セグメントの内訳は、主な子会社の営業利益の単純合算値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*3 【 】は分譲売上(外部売上高)(再掲)です。

単体業績予想

(単位: 億円)

	2014年3月期 通期実績 A	2015年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/30) 予想 B	今回(10/29) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	8,736	8,745	8,810	+73	100.8	+65
運輸収入	7,806	7,815	7,880	+73	100.9	+65
その他収入	930	930	930	▲ 0	100.0	—
営業費用	7,718	7,795	7,795	+76	101.0	—
人件費	2,354	2,330	2,330	▲ 24	98.9	—
物件費	3,516	3,690	3,690	+173	104.9	—
動力費	431	465	465	+33	107.9	—
修繕費	1,390	1,465	1,465	+74	105.4	—
業務費	1,695	1,760	1,760	+64	103.8	—
線路使用料等	236	185	185	▲ 51	78.3	—
租税公課	316	320	320	+3	101.0	—
減価償却費	1,293	1,270	1,270	▲ 23	98.2	—
営業利益	1,017	950	1,015	▲ 2	99.7	+65
営業外損益	▲ 217	▲ 200	▲ 200	+17	91.8	—
営業外収益	65	66	66	+0	—	—
営業外費用	283	266	266	▲ 17	—	—
経常利益	799	750	815	+15	101.9	+65
特別損益	12	▲ 85	▲ 85	▲ 97	—	—
特別利益	238	—	—	—	—	—
特別損失	226	—	—	—	—	—
当期純利益	486	430	500	+13	102.7	+70

※2015年3月14日に予定されている北陸新幹線運行開始に伴う開業後の収入・費用への影響は、本業績予想には織り込んでおりません。

運輸収入の見通し

(単位: 億円)

	2014年3月期 通期実績 A	2015年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/30) 予想 B	今回(10/29) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
新幹線	3,644	3,659	3,686	+41	101.1	+26
在来線	近畿圏	2,921	2,946	+24	100.8	+24
	その他	1,239	1,247	+8	100.6	+13
	在来線計	4,161	4,155	4,193	+32	100.8
運輸収入計	7,806	7,815	7,880	+73	100.9	+65

※荷物収入は金額些少のため省略

単体営業費用の見通し

(単位: 億円)

科目	2015年3月期 通期見通し			
		対前年	主な対前年増減要因	対前回
人件費	2,330	▲ 24 (98.9%)	・退職手当減 ・健康保険・厚生年金等保険料率変更 等	—
動力費	465	+33 (107.9%)	・北陸新幹線金沢開業準備経費 ・燃料価格上昇・再エネ賦課金等増 等	—
修繕費	1,465	+74 (105.4%)	・北陸新幹線金沢開業準備経費 ・工事単価上昇 ・フリーゲージトレイン試験費増 等	—
業務費	1,760	+64 (103.8%)	・北陸新幹線金沢開業準備経費 ・システム関連経費増 ・燃料価格上昇・再エネ賦課金等増 等	—
線路使用料等	185	▲ 51 (78.3%)	・湖西線貸借期間終了 等	—
租税公課	320	+3 (101.0%)	・不動産取得税 等	—
減価償却費	1,270	▲ 23 (98.2%)	・北陸新幹線金沢開業準備経費 ・償却進捗 等	—
営業費用計	7,795	+76 (101.0%)		—

(単位:億円)

連結業績予想

	2014年3月期 通期実績 A	2015年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/30) 予想 B	今回(10/29) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	13,310	13,195	13,300	▲ 10	99.9	+105
営業費用	11,964	12,020	12,060	+95	100.8	+40
営業利益	1,345	1,175	1,240	▲ 105	92.1	+65
営業外損益	▲ 216	▲ 190	▲ 190	+26	87.8	—
営業外収益	77	81	81	+3	—	—
営業外費用	294	271	271	▲ 23	—	—
経常利益	1,129	985	1,050	▲ 79	93.0	+65
特別損益	▲ 12	▲ 90	▲ 90	▲ 77	—	—
特別利益	263	—	—	—	—	—
特別損失	276	—	—	—	—	—
当期純利益	656	585	655	▲ 1	99.8	+70
1株当たり当期純利益(円)	338.98	302.16	338.32	—	—	—

連結業績予想(セグメント別)

	2014年3月期 通期実績 A	2015年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/30) 予想 B	今回(10/29) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益* ¹	13,310	13,195	13,300	▲ 10	99.9	+105
運輸業	8,513	8,528	8,593	+79	100.9	+65
流通業	2,401	2,143	2,143	▲ 258	89.2	—
物販・飲食	1,351	1,298	1,298	▲ 53	96.0	—
百貨店	945	760	760	▲ 185	80.4	—
不動産業	1,022	892	892	▲ 130	87.2	—
ショッピングセンター	535	500	500	▲ 35	93.4	—
不動産賃貸・販売* ³	471	375	375	▲ 96	79.6	—
【分譲事業】	【191】	【81】	【81】			
その他	1,371	1,632	1,672	+300	121.9	+40
ホテル	334	341	341	+6	102.0	—
旅行	415	418	418	+2	100.6	—
営業利益* ²	1,345	1,175	1,240	▲ 105	92.1	+65
運輸業	910	838	903	▲ 7	99.2	+65
流通業	44	10	10	▲ 34	22.6	—
不動産業	277	237	237	▲ 40	85.3	—
その他	118	95	95	▲ 23	80.1	—

*¹ 営業収益は、外部顧客に対する売上高(外部売上高)を示しており、各セグメントの内訳は、主な子会社の外部売上高の合計値です。
内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*² 営業利益の各セグメントの内訳は、主な子会社の営業利益の単純合算値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*³ 【 】は分譲売上(外部売上高)(再掲)です。

連結財政状況およびキャッシュフロー計算書

(単位: 億円)

	2014年3月期 期末 A	2015年3月期 2Q期末 B	増減 B-A
資産	26,878	26,955	+76
負債	18,805	18,568	▲237
純資産	8,073	8,387	+313
長期債務残高	9,807	9,760	▲47
【長期債務平均金利(%)】	【2.63】	【2.57】	【▲0.06】
新幹線債務	2,051	1,894	▲157
【新幹線債務平均金利(%)】	【5.85】	【5.92】	【+0.07】
社債	4,599	4,699	+100
【社債平均金利(%)】	【2.08】	【2.07】	【▲0.01】
自己資本比率	29.2	29.5	+0.3
1株当たり純資産(円)	4,048.31	4,107.65	+59.34

	2014年3月期 2Q累計実績 A	2015年3月期 2Q累計実績 B	対前年増減 B-A
営業活動によるキャッシュフロー	696	617	▲78
投資活動によるキャッシュフロー	▲602	▲779	▲176
フリーキャッシュフロー	93	▲161	▲255
財務活動によるキャッシュフロー	▲132	▲101	+30
現金及び現金同等物の増減	▲38	▲263	▲224
現金及び現金同等物の期末残高	445	466	+20

諸元表

(単位:人、億円)

	2014年3月期 2Q累計実績	2015年3月期 2Q累計実績	2014年3月期 通期実績	2015年3月期 通期予想(10/29)
連結ROA (%)	2.9	3.1	5.1	4.5
連結ROE (%)	4.9	6.9	8.6	8.3
連結EBITDA*1	1,498	1,544	2,884	2,760
連結減価償却費	750	722	1,539	1,520
連結設備投資(自己資金)	462	737	1,667	2,240
単体設備投資(自己資金)	373	583	1,445	1,880
安全関連投資	240	224	893	900
1株当たり配当金(円)	55	60	115	120

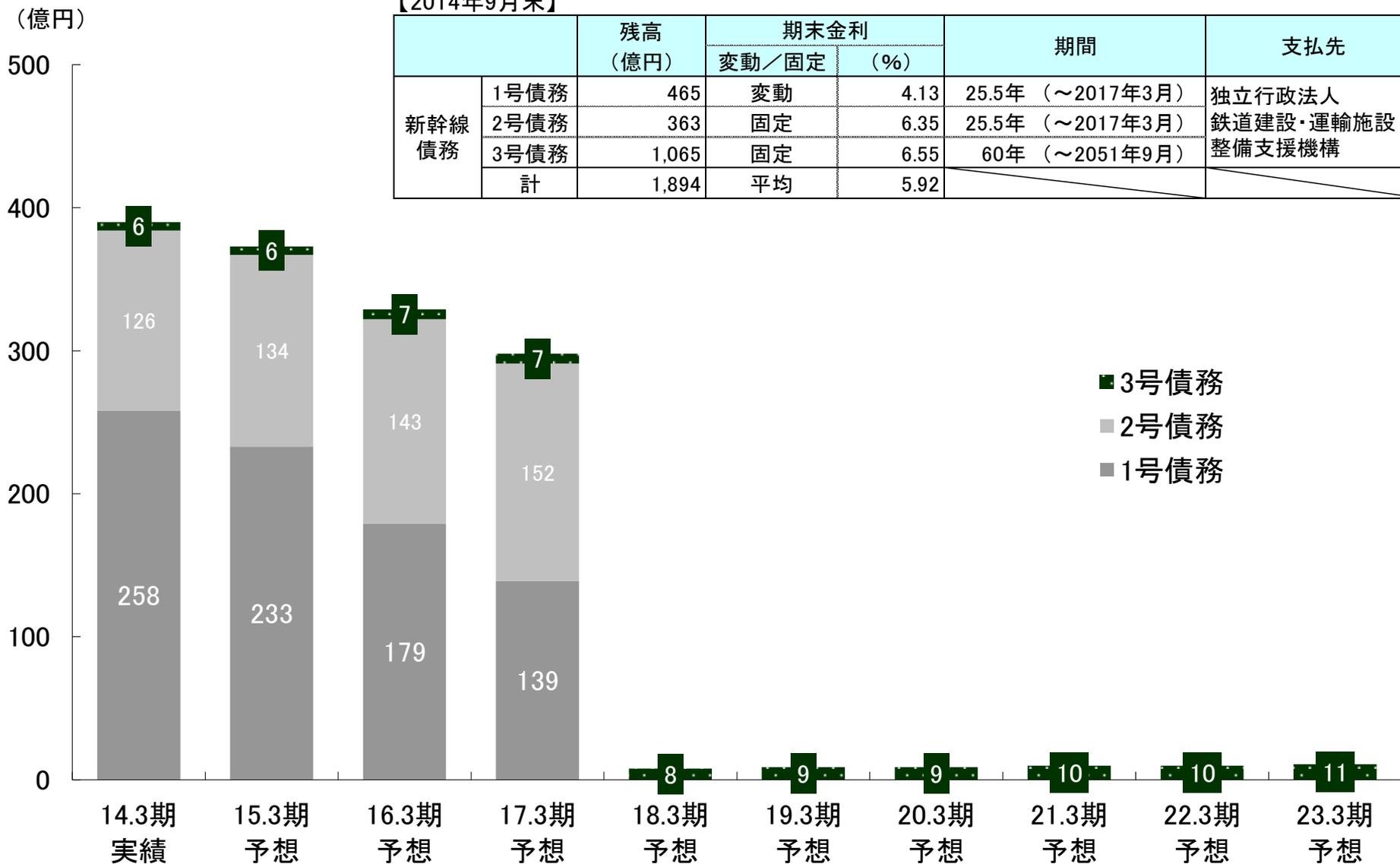
*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

	2014年3月期 2Q累計実績		2015年3月期 2Q累計実績		2014年3月期 通期実績		2015年3月期 通期予想(10/29)	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数(就業人員)	46,127	27,370	48,203	27,362	46,006	27,300	-	-
金融収支	▲ 138	▲ 131	▲ 125	▲ 121	▲ 275	▲ 263	▲ 255	▲ 245
受取利息・配当金	3	9	5	9	5	14	5	14
支払利息	141	140	130	130	280	278	260	260

新幹線債務償還計画

【2014年9月末】

		残高 (億円)	期末金利		期間	支払先
			変動／固定	(%)		
新幹線 債務	1号債務	465	変動	4.13	25.5年（～2017年3月）	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設 整備支援機構
	2号債務	363	固定	6.35	25.5年（～2017年3月）	
	3号債務	1,065	固定	6.55	60年（～2051年9月）	
	計	1,894	平均	5.92		



Ⅱ．今後の取り組みについて

1. 中期経営計画および業績の実績と見通しの概要

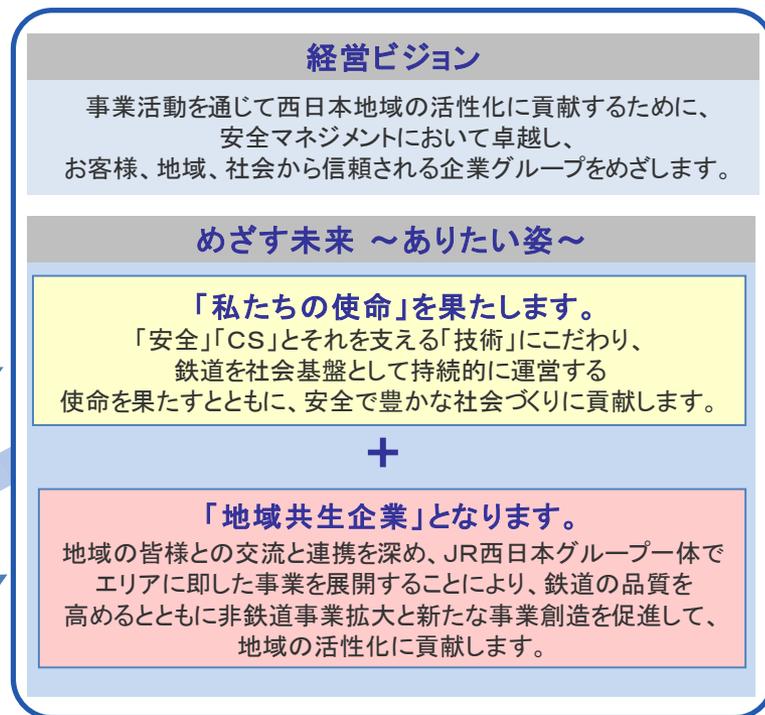
「中期経営計画2017」の概要 めざす未来 ～ありたい姿～

めざす未来を明確化するとともに、
それを実現するため、今後5年間で
「確かな経営の土台をつくり上げる期間」
と位置づけ、重点戦略を策定

2013-2017



これからの時代の
「新しいJR西日本グループの姿」



現在

未来
20

2015年3月期第2四半期累計実績と通期見通し

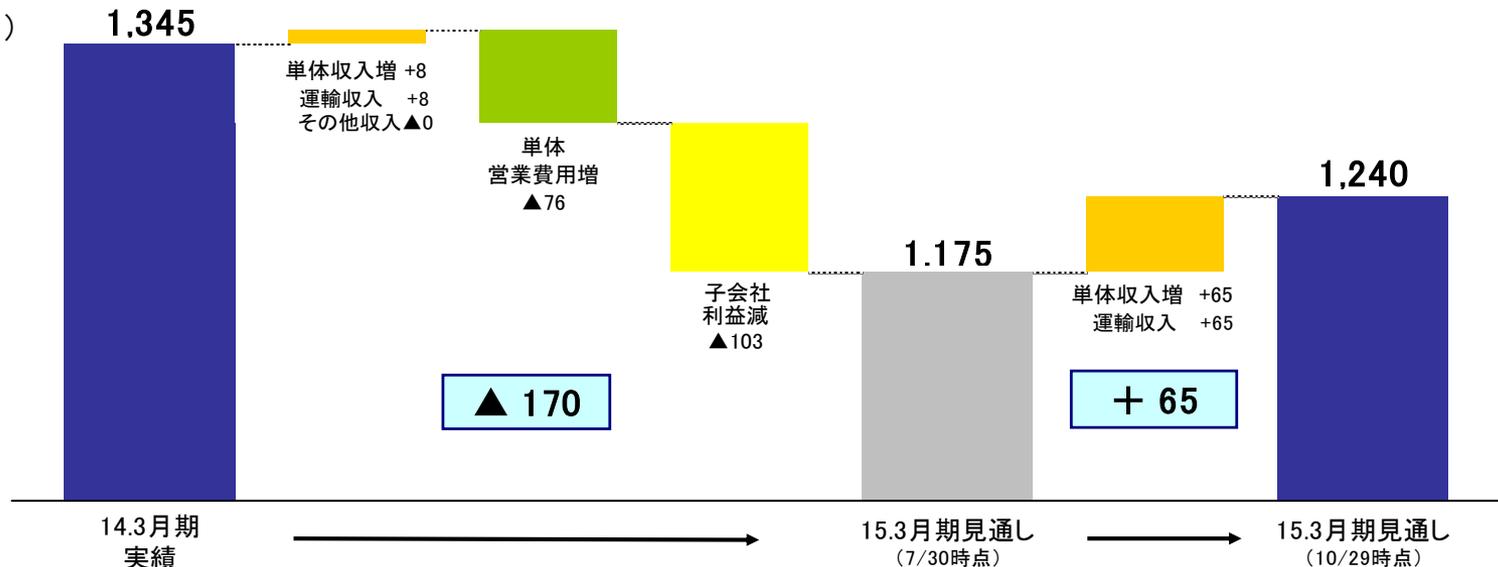
連結業績の実績と見通し

(単位:億円)

	2015年3月期 2Q累計		2015年3月期 通期見通し			
	実績	対前年	前回見通し (7/30)	今回見通し (10/29)	対前回	対前年
営業収益	6,515	+93 (101.5%)	13,195	13,300	+105 (100.8%)	▲10 (99.9%)
営業費用	5,693	+20 (100.4%)	12,020	12,060	+40 (100.3%)	+95 (100.8%)
営業利益	821	+73 (109.8%)	1,175	1,240	+65 (105.5%)	▲105 (92.1%)
経常利益	724	+109 (117.7%)	985	1,050	+65 (106.6%)	▲79 (93.0%)
四半期(当期)純利益	544	+175 (147.6%)	585	655	+70 (112.0%)	▲1 (99.8%)

連結営業利益の増減

(単位:億円)



営業収益・営業費用の主な増減要因

鉄道事業の営業費用の増減要因

(単位:億円)

	対前年 増減	2015年3月期営業費用見通し(10/29)	2Q累計 対前年 増減
		主な増減要因	
当 社	+76	北陸新幹線金沢開業準備経費+66、燃料価格上昇・再エネ賦課金等増+33、 工事単価上昇+32、湖西線賃借期間終了▲52等	+3

非鉄道事業の営業収益の増減要因

(単位:億円)

	対前年 増減	2015年3月期営業収益(外部売上高)見通し(10/29)	2Q累計 対前年 増減
		主な増減要因	
流 通 業	▲258	百貨店業▲185 (JR大阪三越伊勢丹▲175(ノースゲートビルディング西館改装工事による減)等) 物販・飲食業▲53(駅改良に伴うリニューアル工事(新大阪、広島、金沢等)による減等)	▲55
不 動 産 業	▲130	不動産賃貸・販売業▲96(分譲収入減▲110等) ショッピングセンター業▲35(リニューアル工事(新大阪、金沢等)による減等)	+1
そ の 他	+300	工事業+281(大鉄工業等の新規連結+410、北陸新幹線関連工事の減等)	+78

当社を取り巻く環境

- 市場:人口減少・高齢化、工事費等上昇、景況感改善、消費増税、観光・訪日客増加
- 競合:航空機(LCC等の新路線就航、既存路線の増便等)
- 自社:死亡労災発生、2015年春北陸新幹線金沢開業、NGB西館再生(※)、SCリニューアル等
※NGB:「OSAKA STATION CITY」ノースゲートビルディング



今年度の取り組み方針

中期経営計画・安全考動計画2年目として着実に安全性向上を図るとともに、北陸新幹線金沢開業やNGB西館再生など中長期的発展に向けた基盤整備にしっかり取り組む

3つの基本戦略(安全、CS、技術)・・・とりわけ安全は経営の最重要課題

- ・「0, 0」「3, 4, 5」目標達成に向けた取り組みを推進(昇降式ホーム柵試験等)
- ・死亡労災発生も踏まえたリスクアセスメント等の取り組み強化
- ・耐震補強等の安全投資の着実な実行
- ・増大する自然災害への対策の強化

- ・ 上期の取り組みは着実に進捗。
- ・ 激甚化する自然災害を改めて実感。

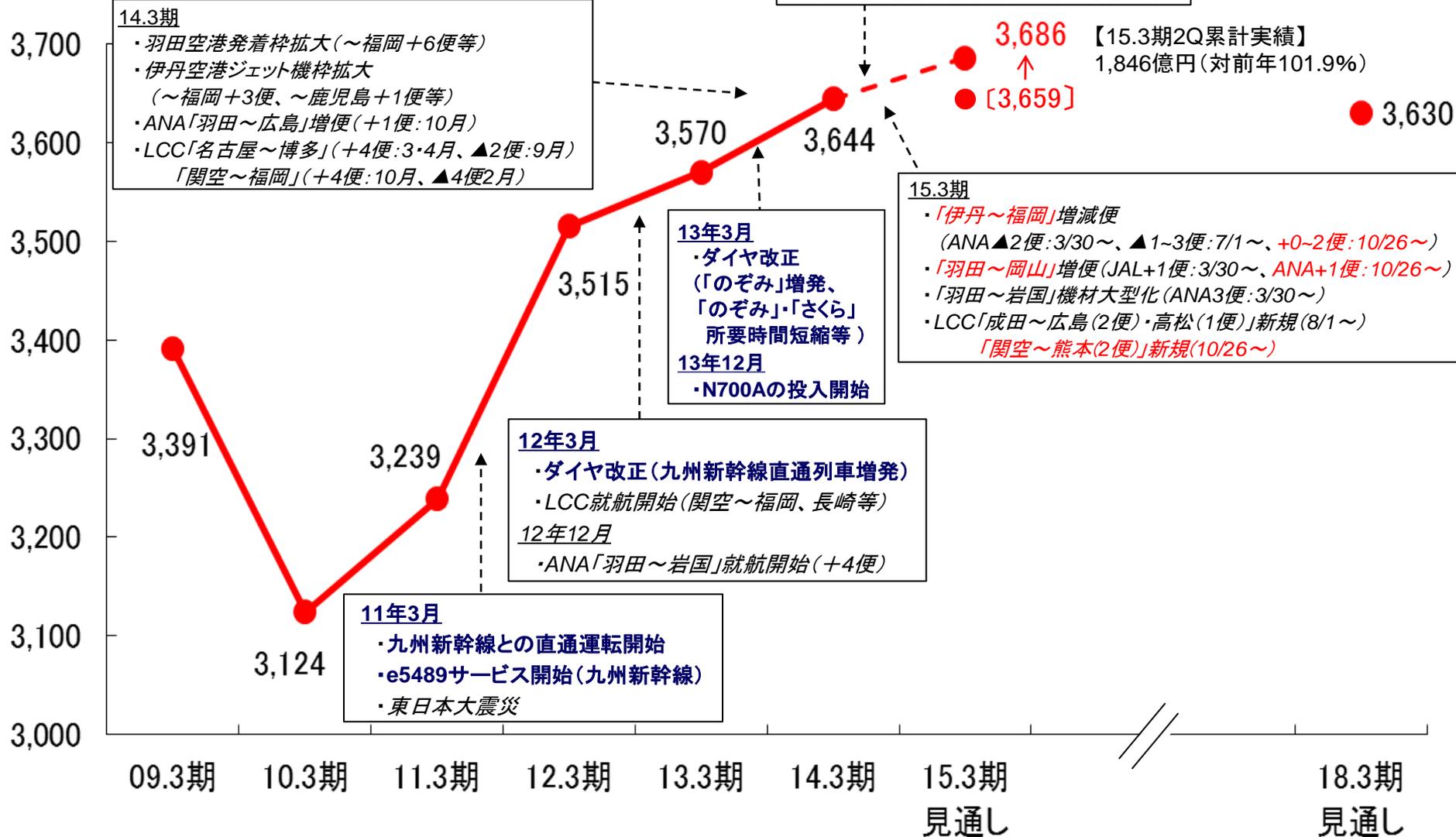
4つの事業戦略(新幹線、近畿エリア、西日本エリア、事業創造) p24～33

2. 各事業戦略における取り組み ～ 新幹線、近畿圏、事業創造 ～

新幹線①（山陽新幹線）

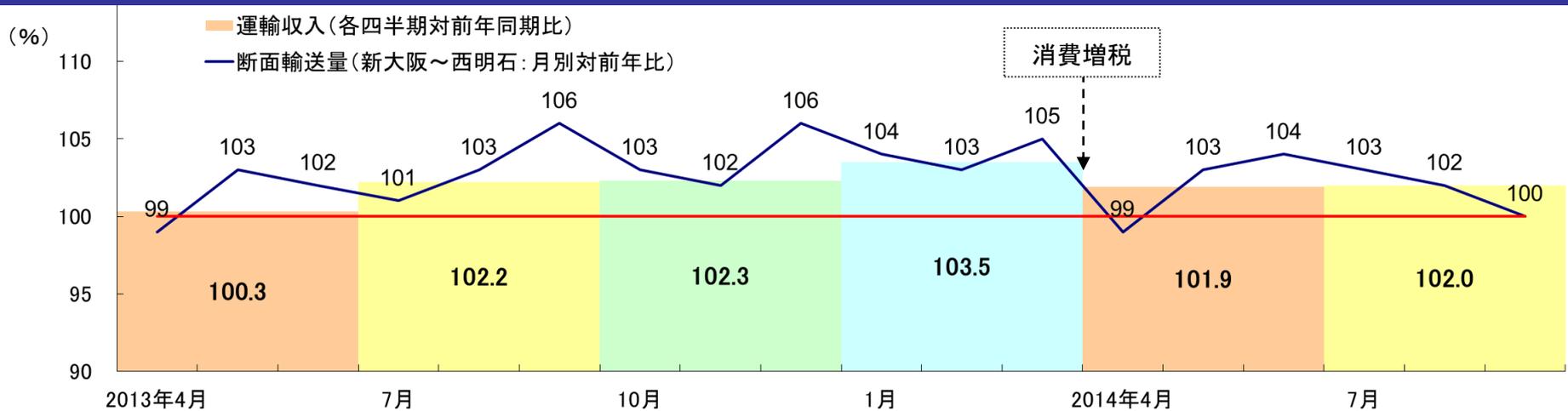
運輸収入
(億円)

※黒字斜字は
外部環境の変化



新幹線②（山陽新幹線）

月次ご利用状況と運輸収入の推移



上期は商品バリエーション充実、ネット政策が奏功 ⇒ 下期も競争力向上・観光需要喚起を推進

競争力の向上

○安全性・快適性の向上

- ・N700系16編成を順次改造（～2015年度）
- ・携帯電話不感地対策推進
 - －新山口駅まで使用開始（2014年度内予定）

○速達性・フリークエンシーの向上（3月ダイヤ改正）

- ・対首都圏：「のぞみ」徳山停車増 等
- ・対九州：「みずほ」増発・姫路駅新規停車
「さくら」新山口停車増

○利便性の高いネット予約の会員拡大

- ・エクスプレス予約、e5489の利便性訴求により
新規会員獲得、ビジネス需要の囲い込み

○商品のバリエーション充実（価格政策）

- ・対首都圏：「東京往復スーパー早特きっぷ」継続設定
- ・対九州：「スーパー早特きっぷ」継続設定

観光需要の喚起

○観光キャンペーン

- ・和歌山デスティネーションキャンペーン（9～12月）
- ・北陸デスティネーションキャンペーン プレキャンペーン
「Japanese Beauty Hokuriku」（10～12月）

○シニア世代に対する観光需要の喚起

- ・シニア向け会員組織の会員に対し、観光キャンペーンに
合わせた割引商品や専用旅行商品の設定

○インバウンド需要の取り込み

- ・商品の充実：「ツーリストパス」の発売（10月～）
 - －のぞみ号も利用可能な「東海道・山陽新幹線ツーリストパス」
 - －「高山・北陸エリアツーリストパス」
- ・東・東南アジアAGT訪問による商品設定推進

新幹線③（北陸新幹線）

北陸新幹線の概要を公表

当社営業区間	上越妙高～金沢 約170Km
開業時期	2015年3月14日
所要時間※1	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢～東京: 2時間28分(▲79分) ・富山～東京: 2時間 8分(▲63分)
価格※2	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢～東京: 14,120円 ・富山～東京: 12,730円
列車体系	<ul style="list-style-type: none"> ・東京～金沢間直通列車(速達タイプ)「かがやき」10往復 ・東京～金沢間直通列車(停車タイプ)「はくたか」14往復 ・富山～金沢間運転列車(シャトルタイプ)「つるぎ」18往復 ・東京～長野間運転列車(現長野新幹線タイプ)「あさま」16往復

※1 所要時間: 最速列車の所要時間。短縮時間は現行の最速列車との比較
 ※2 価格: 大人・普通車指定席・通常期の運賃料金総額(10月認可申請)



開業効果最大化に向けた取り組み

○広域観光ルートの整備

・アクセスバス

－ 北陸デスティネーションキャンペーン プレキャンペーン
 に合わせ3ルート設定、商品化 ⇒ ブラッシュアップ



・七尾線観光列車(2015年10月～運行開始予定)

－ アクセスバスと合わせて
 金沢～能登～高岡・富山
 トライアングル周遊観光の
 促進

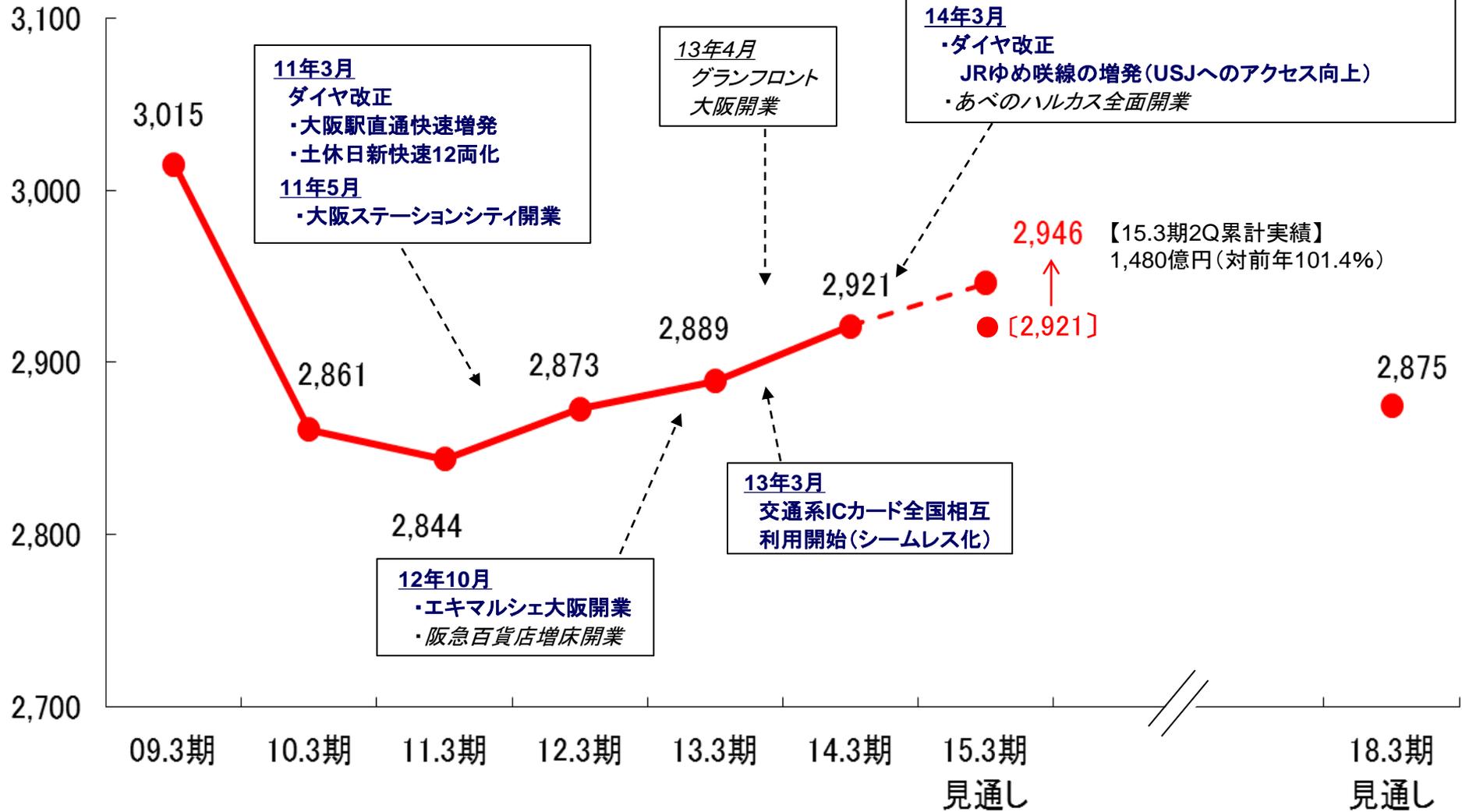


七尾線観光列車
 「花嫁のれん」

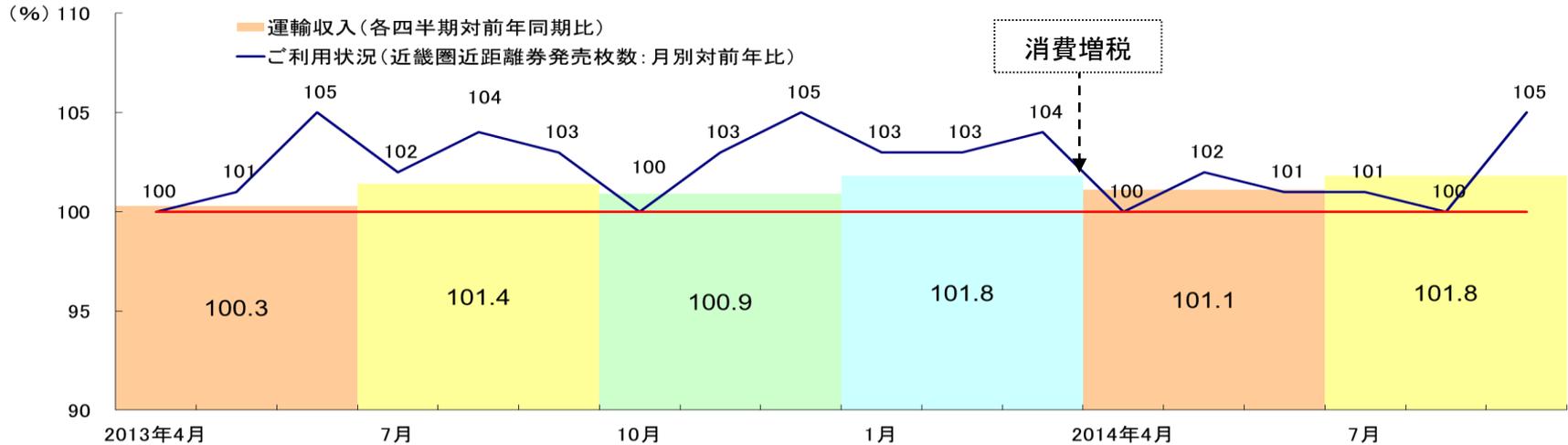
近畿圏①

運輸収入
(億円)

※黒字斜字は
外部環境の変化



月次ご利用状況と運輸収入の推移



上期はUSJ・大型商業施設・インバウンド等もあり好調 ⇒ 引き続き短期・中期の施策を推進

今後の取り組み

○安全性・快適性の向上

- ・車両リニューアル: 安全性向上及びバリアフリー対応等の充実 (221系、207系)

○線区価値向上

- ・駅設備整備と合わせた駅ナカ店舗等の充実
 - 摂津本山駅 (10月)、尼崎駅 (11月予定)、新大阪駅 (2015年春頃 I 期開業)
- ・大阪環状線改造プロジェクト: 森ノ宮駅リニューアル推進 (店舗開発・駅美装等)、各駅トイレ改良

○都市型観光の推進

- ・「USJハリー・ポッター」を活かしたご利用拡大
 - 3月ダイヤ改正: JRゆめ咲線の増発 (平日朝時間帯)
- ・WEB (マイ・フェイバリット関西) による情報発信

○ICOCA利用拡大

- ・「ありがとう1,000万枚!! ICOCAキャンペーン」展開 (10月～)



207系通勤型電車
リニューアル

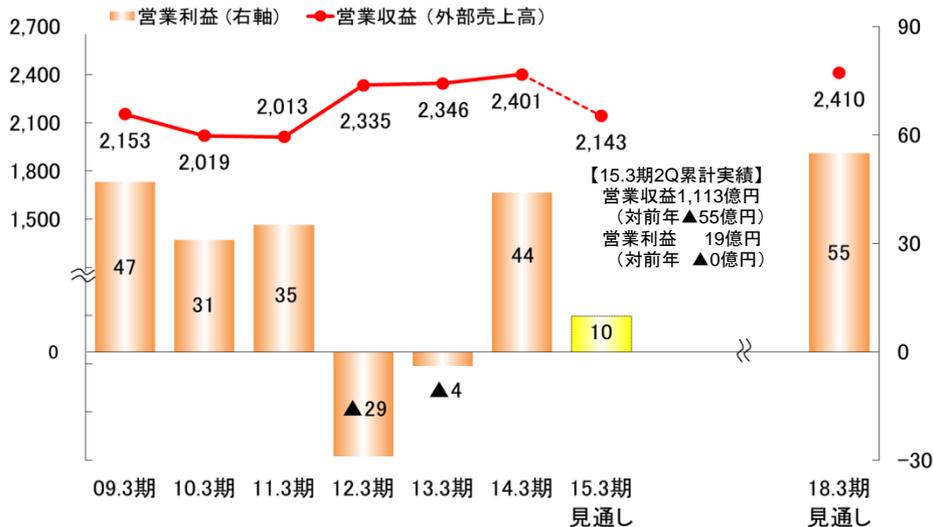


新大阪駅コンコース
商業施設

事業創造①

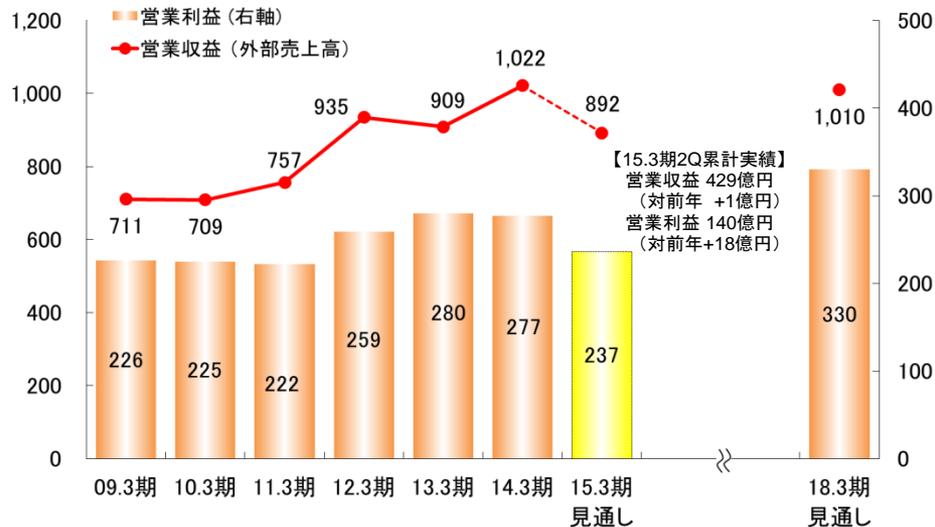
流通業

(単位: 億円)



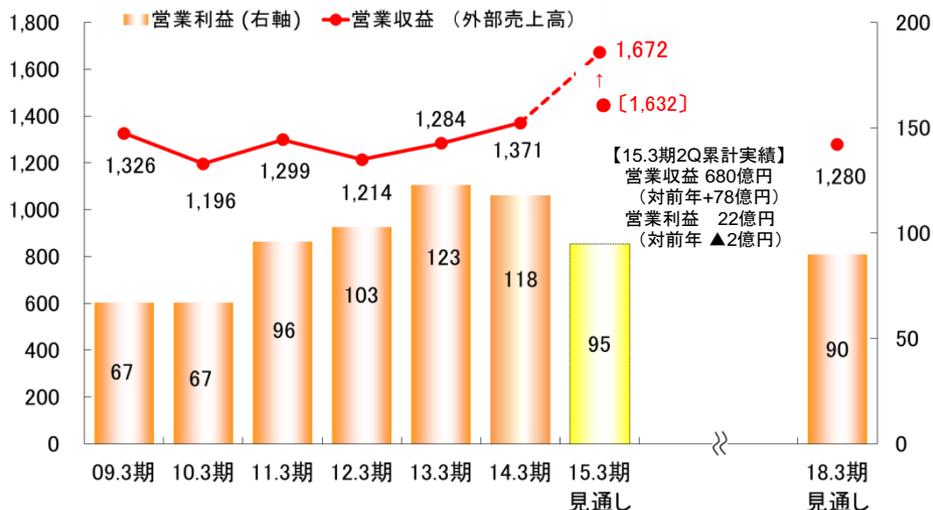
不動産業

(単位: 億円)



その他事業

(単位: 億円)



通期の主な増減要因(営業収益)

○流通業

- ・百貨店業の減 (ノースゲートビルディング西館改装工事による減等)

○不動産業

- ・不動産賃貸・販売業の減 (分譲収入の減等)
- ・ショッピングセンター業の減 (リニューアル工事による減等)

○その他事業

- ・工事業の増 (大鉄工業等の連結子会社化による増等※)

※影響額: 営業収益+410億円、営業利益+5億円

(その他、負ののれん発生益が73億円発生)

工事支障等も含め、概ね計画通りに案件が進捗

物販飲食業

○商品・サービス・運営力強化による質的向上



・セブン-イレブン・ジャパンとの業務提携

- 概ね5年間で既存の駅店舗（約500店舗）を提携店舗へリニューアル、駅の魅力向上
 - ⇒ 新規出店分も含め、約200億円の増収効果見込み
- 当面のリニューアルスケジュール
 - 2014年度内に70店舗予定、9月末までに17店舗完了
 - ⇒ **9月の売上は5割以上増加**（※対前年比較可能な13店舗合計）

○沿線外・エリア外への積極展開

- ・オリックスグループからビジネスホテル事業譲受
 - 3店舗（東京、大阪、広島）を「ヴィアイン」としてリブランドオープン（6月）

百貨店業・SC業

○「OSAKA STATION CITY」

ノースゲートビルディング西館の抜本的見直し



西館イメージ



参考イメージ「代官山 蔦屋書店」

- ・ 話題性の高い専門店と、強みを発揮できる分野に特化した百貨店店舗を融合
 - ⇒ これまでにない魅力的な商業施設として刷新
 - 西館 : 「代官山 蔦屋書店」を源流にしたライフスタイル提案型店舗の出店が決定
 - 東館（ルクア）: 8月に約3割の店舗を入替・改装
 - ⇒ **9月の売上は対前年1割増加**
- ・ 売上目標
 - 東館（SCのルクア）と合わせて約800億円
- ・ 収支見通し
 - （株）ジェイアール西日本伊勢丹：2015年度での黒字化
- ・ 開業時期
 - 2015年春予定（7月28日より改装工事に着手）

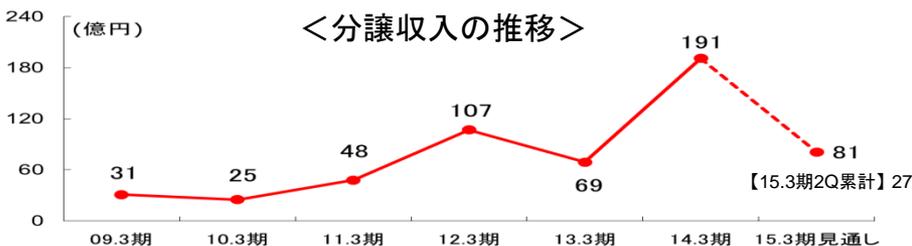
不動産販売業

○住宅分譲事業の推進

・新規分譲予定物件（2014年度以降）

※は他社との共同事業

マンション名	所在地	引渡時期(予定)	総戸数
摩耶シティ NADA EXCEED※	神戸市灘区	2014年8月	130戸
ジェイグラン千里丘	大阪府吹田市	2015年3月	37戸
ジェイグラン・エル塚	大阪府堺市	2015年9月	135戸
京都桂川つむぎの街 グランスクエア※	京都市	2015年9月	431戸
摩耶シティ COMFORT※	神戸市灘区	2016年3月	105戸
摩耶シティ DELIGHT※	神戸市灘区	2016年3月	57戸
(仮称)関西最大級・JR駅前再開発プロジェクト(A街区)※	兵庫県尼崎市	2016年3月	247戸
(仮称)UP!LANDいばらき新街区創造プロジェクト	大阪府茨木市	2016年3月	283戸
グレーシアシティ川崎大師河原※	神奈川県川崎市	2016年6月	558戸



賃貸業

○沿線外、エリア外への積極展開

・「福岡天神NKビル」 市中用地を取得し商業ビルを開発
(12月開業予定)

○主要駅周辺事業への参画

・塚口(尼崎市)駅前用地の取得
(駅ビル、住宅分譲事業への参画)



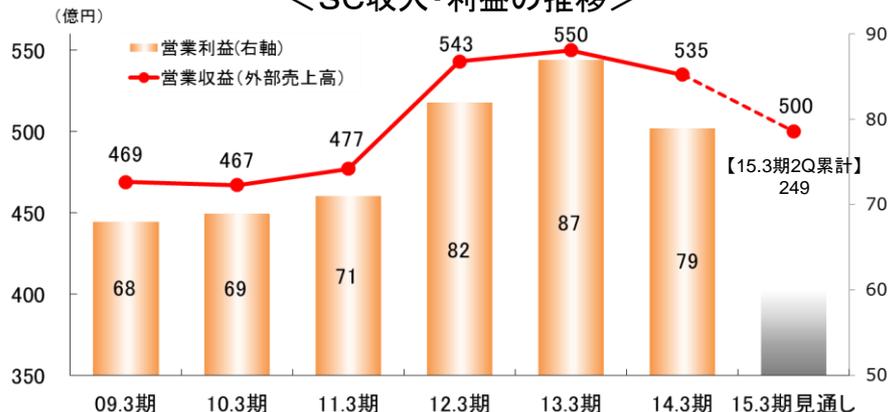
JR金沢駅西第一NKビル

○土地等資産の最大活用

・「JR金沢駅西第一NKビル」社宅跡地の再開発
(オフィスビル、6月竣工)

ショッピングセンター業

＜SC収入・利益の推移＞



○新規開発の推進

・新幹線高架下商業施設
富山駅、金沢駅 (2015年春開業予定)

○リニューアル

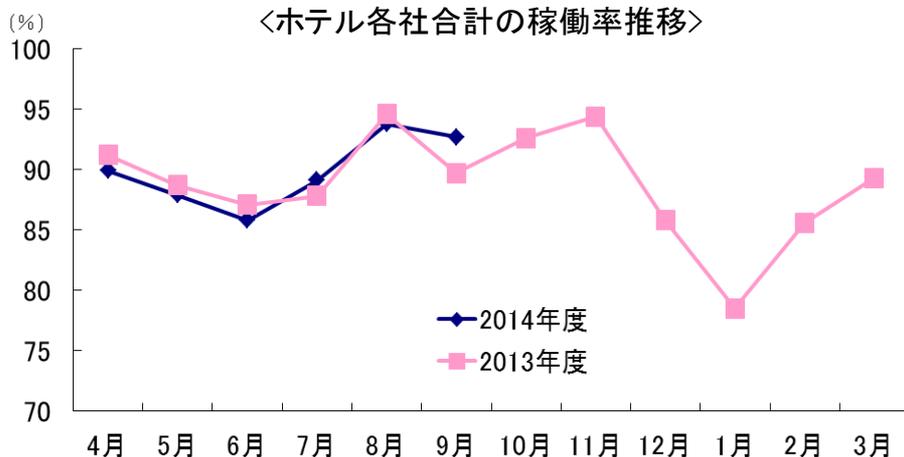
・金沢百番街「あんと」(7月)
・メディオ新大阪 (2016年度末全面開業予定)
・ステーションプラザ明石 (2015年秋開業予定[2015年1月着工])



金沢百番街「あんと」

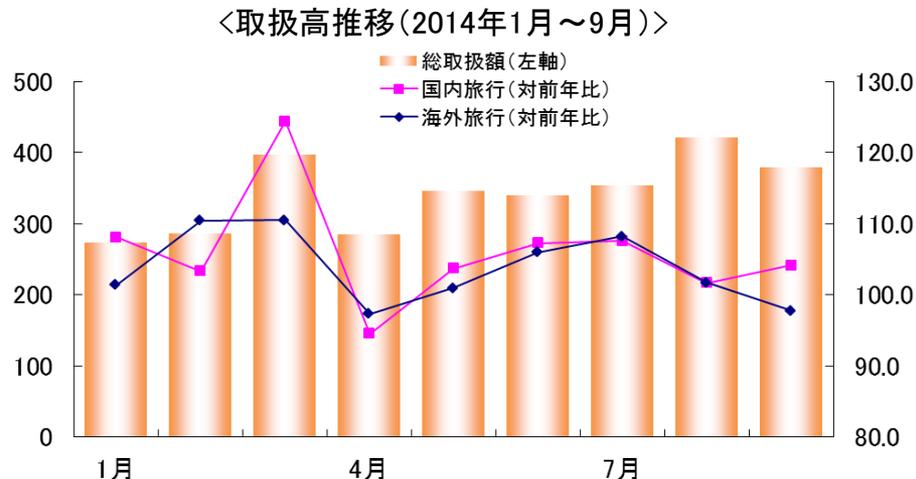
ホテル業

- リピーター獲得に向けたプロモーション強化
- 新たな顧客獲得に向けたセールス強化（首都圏、アジア）



旅行業（日本旅行）

- インターネット販売やBTM営業、インバウンド等強化
- JR利用商品やヨーロッパ方面商品拡販



新たな事業分野へのチャレンジ

- 資産や技術の有効活用等による新たな事業分野への進出
 - ・リハビリデイサービス事業
 - ポシブル医科学株式会社の子会社化による事業拡大
 - 当社営業エリアでの店舗開発・サービス展開
防府(4月)、伏見(7月)、北山(11月)、尼崎(11月)
- 農業・健康等への事業拡大と地域活性化への貢献
 - 株式会社 五万石千里山荘(冷凍おせち製造販売)への資本参加(7月)
 - 株式会社 グローカル・アイ(医療機関レシピ配信)、株式会社 神明ホールディング(米卸)との業務提携(10月)

事業の見直し

○ゴルフ事業の譲渡

- ・ゴルフ場経営をコア事業として営む株式会社アコーディア・ゴルフに譲渡(10月)

3. 設備投資計画、キャッシュフロー・財務の状況、株主還元

設備投資計画(連結)

中計期間における投資額

(単位:億円)	前中計 (実績)	現中計 (計画)
連結	9,824	9,200
単体	7,780	8,000
(再掲) 安全関連投資	4,683	4,700

2015年3月期の主な設備投資案件

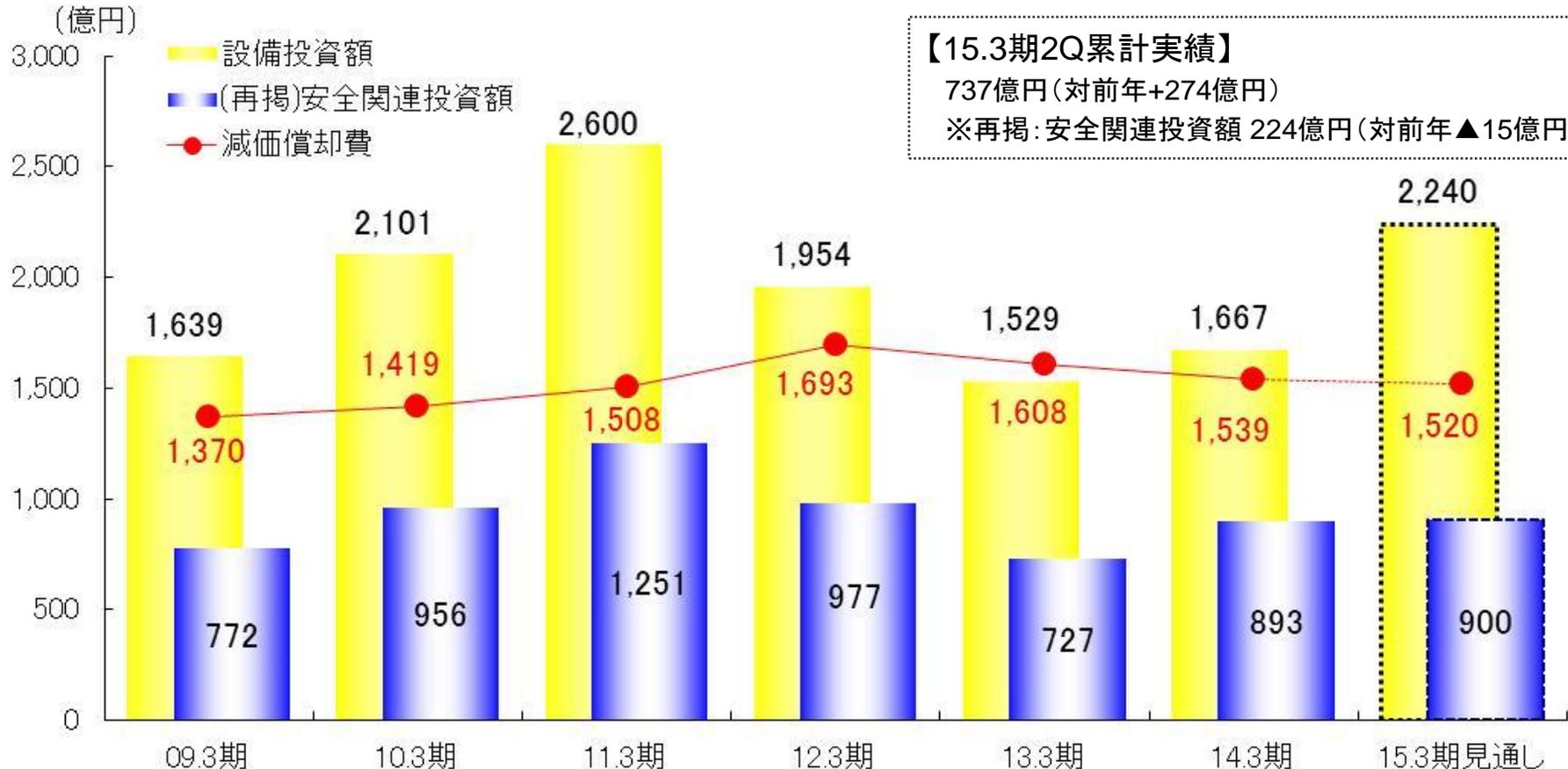
○成長投資

- ・北陸新幹線関連
- ・新駅設置
- ・ノースゲートビルディング西館
新商業施設開発

○事業の継続的運営に必要な投資

〈安全関連投資〉

- ・山陽新幹線ATC取替
- ・地震・津波対策
- ・在来線車両取替
- ・新保安システム
- ・バリアフリー
- ・駅改良



キャッシュの使途の優先順位

営業キャッシュフロー

配分の優先順位

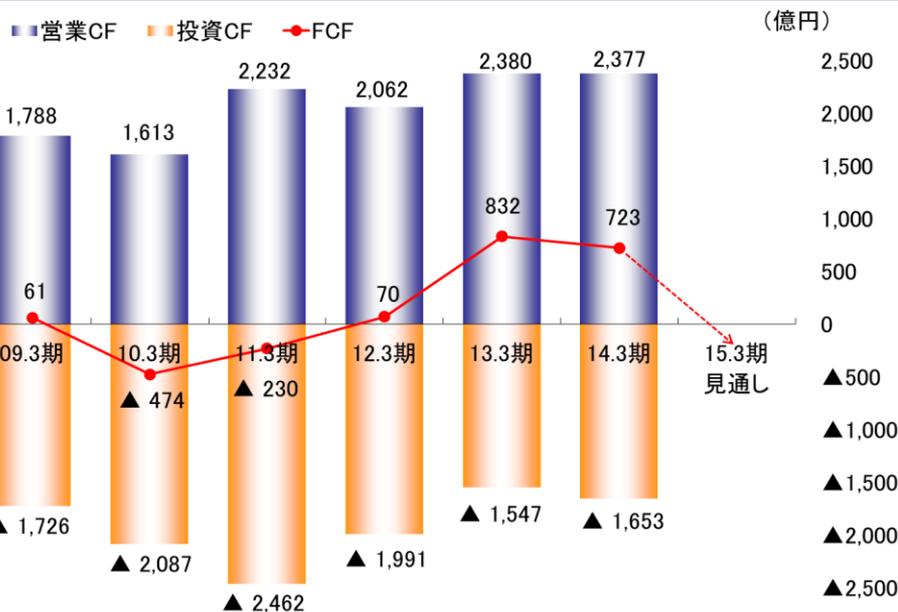
① 安全・成長投資

② 株主還元

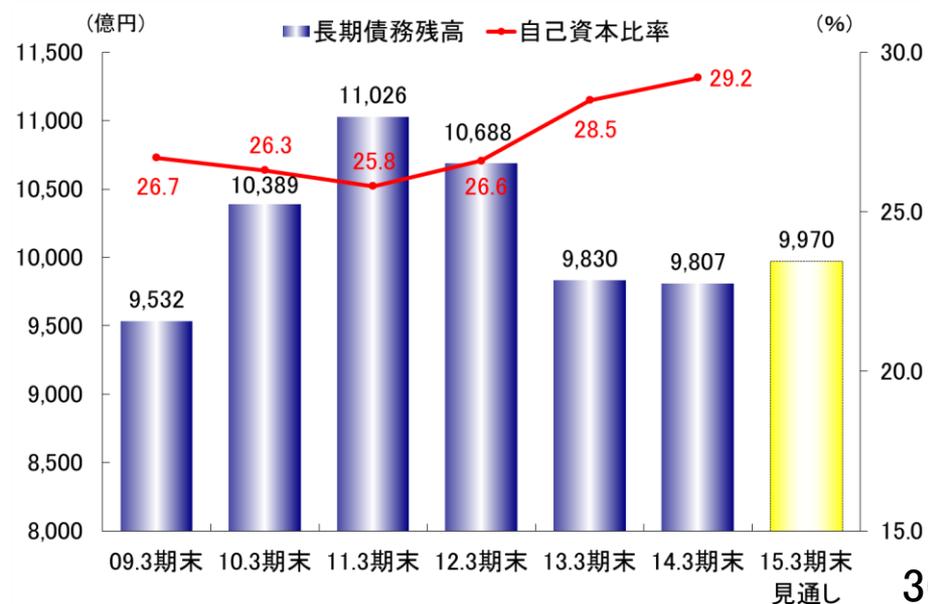
③ 債務削減

※原則として長期債務残高維持(連結1兆円)
ただし、市場金利に留意しつつ残高をコントロールしていく

キャッシュフローの見通し(連結)



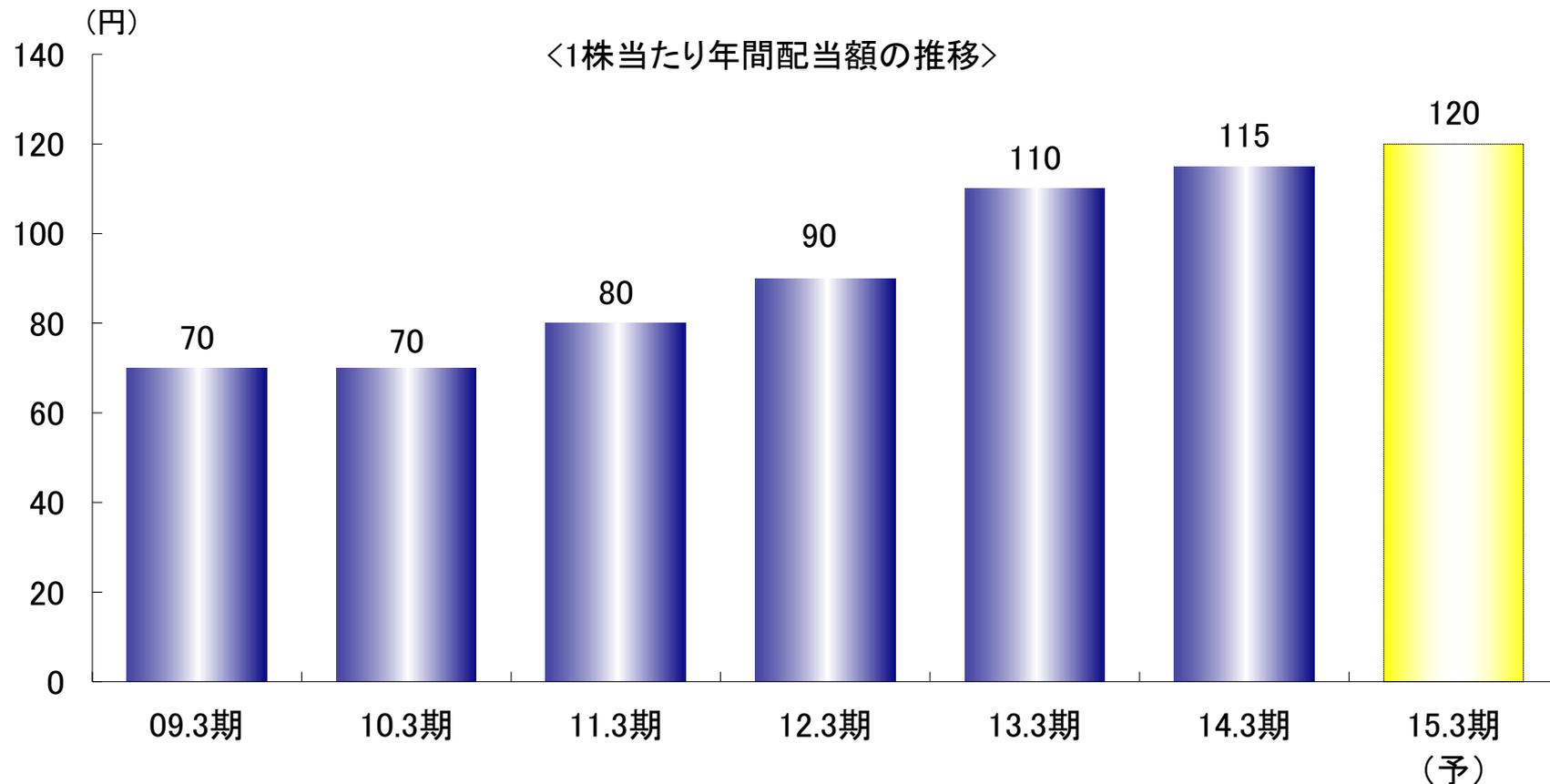
長期債務残高・自己資本比率(連結)



株主還元

- 長期安定的な株主還元を重視する観点から、引き続き、自己資本を勘案した株主還元を実施。
- 具体的には、北陸新幹線金沢開業後のご利用状況や、本計画で掲げた目標の達成状況を踏まえ、2018年3月期に、連結ベースでの「自己資本総還元率(※)」3%程度を目指す。

※自己資本総還元率(%) = (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 連結自己資本 × 100



業績推移と見通し

(単位:億円)

	2013年3月期 見通し (2013年1月時点)	2013年3月期 実績	2014年3月期 実績	2015年3月期 見通し (2014年10月時点)	2018年3月期 見通し (2013年3月時点)
営業収益	12,890	12,989	13,310	13,300	13,060
運輸業	8,404	8,449	8,513	8,593	8,360
流通業	2,358	2,346	2,401	2,143	2,410
不動産業	895	909	1,022	892	1,010
その他	1,233	1,284	1,371	1,672	1,280
営業利益	1,210	1,294	1,345	1,240	1,275
運輸業	865	901	910	903	805
流通業	▲16	▲4	44	10	55
不動産業	262	280	277	237	330
その他	102	123	118	95	90
経常利益	960	1,046	1,129	1,050	1,065
当期純利益	560	601	656	655	660
運輸収入	7,650	7,691	7,806	7,880	7,640
ROA	4.6%	4.9%	5.1%	4.5%	4.7%
ROE	7.8%	8.3%	8.6%	8.3%	7.3%
EBITDA	2,825	2,903	2,884	2,760	2,925

(注)・営業収益は外部顧客に対する売上高

・セグメント別営業利益はセグメント間消去前

・運輸収入は運輸業のうちJR西日本の鉄道事業の旅客運輸収入

将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとする重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
 - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
 - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
 - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
 - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
 - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2014年10月31日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2014年10月31日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR西日本ホームページ「IR情報」 <http://www.westjr.co.jp/company/ir/>